



蓬田

蓬田村公民館報
 【蓬 門】 第62号
 発行所 青森県東津軽郡
 蓬田村公民館
 印刷所 蟹田印刷所

年頭のことば

村長 坂本大博



親愛なる村民皆様
 明けまして御芽出度う御座います
 光輝ある昭和四十四年の新春を迎
 えるに当り謹んで年頭の辞を申し
 上げます。
 顧みますと昨四十三年は国内外と
 もに多事多難の年であった訳です
 が我が蓬田村にとつて見ればむし
 ろ輝かしい記念すべき年であった
 事柄が伺えるので行政施策上幾多
 の業績を銘記する事が出来ます。
 即ち明治百年記念並びに村政執行
 八十周年記念の事業は村当局を始
 め各種機関団体は勿論村民こそつ
 ての盛り上がりから産業経済教育民
 生安定とキメ細やかに計画実現を
 見たのであります。

まずと先づ、春以来の不順天候を
 克服して見事に豊稔の出来秋を取
 め農協十万俵倉庫の落成、進ん
 だ村内いたる処新規開田と木場整
 備事業が行われ新農政の展望に即
 応せる不拔の基礎対策が約束され
 又県道完全ホ装海岸工事の進捗其
 の他災害対策及び一般農耕土木事
 業の急速処理更らに教育の面に於
 ては学校給食センターの建設運営
 を始め玉松の献燈蓬田城址の碑建
 立殊に蓬田音頭の作曲振付、村章
 制定然も村民一人一人の自覚と責
 任を基盤とせる村造りのため村民
 憲章を制定宣言せられた事柄は大
 きく我村将来百年の基本を明確に
 した感激であります。
 もつて民心を安ずるに消防行政に
 就いては多年念願とせる日本消防
 協会の名譽ある表彰旗樹立の光榮
 と国保運営の実績は又厚生大臣表
 彰の榮に輝き且は交通の災害から
 守るべく村対策協議会の発足と共
 に末端組織に之れを及ぼし加えて
 第二回農集電話と全村有線放送施
 設の完成による万全の施策を強化
 せる等既に周知の事実であります

事は之れ一人に村議会を始め村民
 各位の郷土愛に徹した御協力の賜
 と深く敬意を表する次第で御座い
 ます。尚御約束の如く村の総てを
 あづかる者として其のもつとも正
 営せられ年度決算も一般特別会計
 共に大きく黒字を以つて御報告出
 来ましたので御安心を預けます事
 を同慶に存するもので御座います
 以上村政の大綱からは本当に安泰
 でありましたがさて村民毎戸にそ
 して一人一人の身上に思いを致す
 ならばまだ行政の浸透性に於
 て幸せなものであつたでしようか
 御正月の慶びの中に病床に伏る方
 さて家計上の御心配事など大変お
 こまりの方々はないでしようか、
 万端の事柄に及べば身の至らない
 ままに不足の点多かつた事と思
 う時深く御同情を申し上げますと
 共に何にかと又御気軽に御相談を
 承まわれよう切望するものであ
 ります斯様な難点に立ち明けてゆ
 く昭和四十四年は村民の一人一人
 が健康で愉快に働き明るく豊かに
 希望に満ちた生活を求めてより経
 済の成長と教育文化を高めて癒合
 和榮の真に住みよき村造りに全情
 魂を傾注致す所存で御座います。
 何卒村民各位の御協力を御願いす
 る次第であります。尤も構想の細
 部につきましては新年度予算編成
 の方針によつて明確に致しまして

有線放送運営について

紙面の「上割愛をさせて頂きま
 すから御了承賜ります。
 ここに新年を心から御祝い申し上
 げ村民皆様の御健康と弥栄の御幸
 福を御祈り申し上げて年頭の辞と
 致します。

客年十一月三十日屋外スピーカー
 方式による有線放送が開通し、そ
 の運営について協議会を開き大綱
 を決め、細部の運営は村理事者に
 一任することにした。
 放送は一月一日から開始する。

- 一、大 要
- (一)、広報を目的と、村の出来
 ごと、災害救助、行政指導、
 部落連絡、行喜通知、その他
 緊急を要するもの。
 - (二)、放送範囲



- (1)、定時放送
 - イ、行政指導
 - ロ、行 事 通 知
- (2)、臨時放送
 - イ、行政指導
 - ロ、行 事 通 知
 - ハ、部落行政(部落全体
 の行事)
- (3)、緊急放送
 - イ、行政指導
 - ロ、火 災
 - ハ、事 故
 - ニ、急 病
 - ホ、災 害

- 一、定時放送
- 朝 十一月～三月 七時～
 - 朝 三〇分
 - 昼 十二月～ 三〇分
 - 夜 四時～ 三〇分
 - 夜 三〇分
 - 朝 四月～十月 六時～
 - 朝 三〇分
 - 昼 十二月～ 三〇分
 - 夜 七時～ 三〇分
- 【写真……有線放送
 の初放送】

蓬田村民憲章制定さる

十一月二十三日、明治百年記念祝典 町村制施行八十周年記念式典に於て

1、村民憲章の制定の動機
明治百年記念事業を実施するに当り、推進実行委員会を設立し実施計画予算を審議しました。
その中で、蓬田村民が新しい時代にあふさわしい感覚と教養を身につけた情操豊かな文化人として平和な村民生活を樹立するため、村民の「道しるべ」として村民のよるべき規模を定めることの必要から村民憲章というようなものを制定しようという声が高まり記念事業の一環として別に起草委員会を発足させ村憲章制定することになった。

蓬田村民憲章

2、制定起草準備委員会(別表の通り)
各界代表及び学識経験者の構成による、準備委員会が開催され即起草委員会に切り替え、制定の可決を確認し、憲章の名称及び作成要領等を審議し、さらに起草実行委員会を設置(委員数及び選考田公民館事務局一任)審議することに決定した。

3、起草実行委員会(別表の通り)
主として制定起草委員の中から選任された起草実行委員会は、先の委員会でも出された内容に基づき、更に二十数項目に分類し文案及び名称等を審議、起草案の作成がなされた。

4、制定会議
制定起草委員会が開催され、起草案を審議のうえ制定が正式決定されるに至った。こうして昭和四十三年十一月二十三日明治百年記念祝典、町村制施行八十周年記念式典において蓬田村民憲章の制定が発表され、告示されたのである。

- わたしたちは伝統ある玉松精神を尊重し、蓬田村の村民であることに誇りと責任を感じ、この憲章をかかげて明るい、ゆたかな、すみよい、蓬田村をつくることにつとめましょう
- 一、なんでも話しあい、たがいに助けあう明るい村をつくりましょう
- (1) 広く話し合いの場をつくり、相手の話をよく聞きましょう
 - (2) 隣り近所はおたがいに親しみ助けあいましょう
 - (3) 老人や子供をいたわり、その施設(老人ホームや児童の遊び場)をつくりましょう
 - (4) きまりのよい生活をし、集会の時間を守りましょう
 - (5) 礼儀作法を重んじ、言葉づかいに気をつけましょう
 - (6) 公衆道徳を高め、公共の施設を大切にしましょう
 - (7) 交通法規をよく守りましょう
 - (8) 防火防災、協力しましょう

- (9) 公私それぞれサービス精神を高めましょう
- (10) げんきで働き、楽しい家庭とゆたかな村をつくりましょう
- (11) 心身の健康を保持増進するくふうをしましょう
- (12) 家庭の民主化につとめ、家族相互で協力しましょう
- (13) 家庭の行事を大切にしましょう
- (14) 子どもを健全な育成につとめましょう
- (15) 日常生活にスポーツやレクリエーションをとりいれましょう
- (16) 仕事の合理化と能率化を図り生産を高め経済をゆたかにしましょう
- (17) 科学技術を重んじ、創造開発につとめましょう
- (18) ここから郷土を愛しすんですみよい村をつくりましょう
- (19) 先人の偉業を尊びましょう
- (20) 郷土にふさわしい衣食住の改善につとめましょう
- (21) 教育施設を拡充し、学校教育を充実しましょう
- (22) 社会教育施設を充実し、その振興につとめましょう
- (23) 学校と家庭と社会の掛け合い協力を強めましょう
- (24) 文化活動を盛んにしましょう
- (25) 環境衛生(カヤはえの駆除等)や公衆衛生(伝染病予防等)につとめましょう
- (26) 玉松公園の草木を大切にし海水浴場をきれいにしましょう
- (27) 道路や下水の清掃につとめましょう
- (28) 文化的生活を高めるくふうしすみよい家庭や社会環境をつくりましょう

村民憲章起草の基本的な考え方

一、村民憲章の構造
この憲章は、蓬田村民として望ましい近代村民像を健康性、生産性、道徳性、生産性、道徳性、文化性という四つの源質としてとらえ、蓬田村のビジョンとした。

その語源ともつ内容を探究し二十二項からなる語を生みそれぞれに分類し三項目にしほり明るい、ゆたかな、すみよき、村民性をえがき、さらに蓬田村の長所、短所を究明し、蓬田村の特色や種々な課題を織込んだものである。

(2) この憲章は、各項目それぞれ独立した意味をもたせるとともに、互に有機的な関連をもつようにし、各項目の後段で村民の生活基盤を家庭から郷土まで下図のように同心円的に広がりをもたせて表現したものです。



村民像	健康性	生産性	道徳性	文化性
村民性	健康、道徳、個人、親愛、隣人愛			
明るい	話し合い			
ゆたかな	生産、科学、創造、貢献、経済、協同開発(大館精神)、開発			
住みよい	文化、調和、政治、社会、歴史性	郷土愛、玉松精神、奉仕		
長	郷土愛、協調性、親切、努力性、素直さ、文化性、生活安定性に富んで	不良化が少い		
短	積極性、社会道徳、創造性、自主性、科学性、合理性に乏しい			

二、村民憲章の表現方式
(1) この憲章は、各項目ごとに前段に村民個々の望ましい生活の在り方をのべ後段に、こうした村民生活をするこゝろによって、私たちの(五ページへ続く)

明治百年記念祝典

町村制施行80周年記念式典挙行

11月23日蓬中に於て

四十三年四月から明治百年記念行事推進委員会を設置記念行事を行つて来た。

その総しめくくりとして記念祝典を催し村内外から百余名の参列を得て盛大に挙行された。

折りよく村憲章起草が創立し制定宣言がなされ自治教育功労者の表彰及び感謝状が贈られ、清水専造長老が明治の思い出話に花が咲き盛會裡に幕を閉じた。



【写真……明治百年記念祝典】



【写真……表彰状並びに

状贈呈式】

部落別	職名	表彰者名	本人及び遺族名
長科	助役	坂本 敏一郎	坂本 肇一
蓬田	〃	工藤 慎一郎	工藤 政治
広瀬	〃	田中 喜八	田中 喜八郎
〃	〃	川崎 三郎	川崎 豊松
長科	〃	張間 音吉	本人
阿弥陀川	〃	倉谷 松恵	本人
長科	収入役	坂本 甚三郎	坂本 祐一
瀬辺地	〃	木村 福松	木村 繁
阿弥陀川	〃	山谷 徳蔵	山谷 俊雄
長科	〃	工藤 儀右=門	工藤 さくら
蓬田	〃	小松 清助	小松 タヤ
阿弥陀川	〃	八戸 倉次郎	本人
瀬辺地	県議會議員 農協組合長	小野 清七	本人
蓬田	村議會議長	清水 専造	本人
中沢	村議會議員	吉田 喜兵衛	(清一改名) 吉田 喜兵衛
瀬辺地	〃	越田 栄次郎	越田 長太郎
阿弥陀川	〃	八戸 倉助	(実改名) 八戸 倉助
高根	〃	稲葉 三郎兵衛	稲葉 チセ
中沢	〃	坂本 竹松	坂本 万太郎
瀬辺地	〃	山館 竹四郎	山館 誠弘
蓬田	〃	田中 熊次郎	田中 薫
広瀬	〃	田中 丑松	田中 一雄
瀬辺地	〃	田中 孫八	田中 栄蔵
〃	〃	久慈 勇丈	久慈 キサ
〃	〃	山館 清一	山館 清剛
阿弥陀川	〃	八戸 倉助	本人
〃	〃	森 孫太郎	〃
蓬田	〃	吉崎 慶次郎	〃
長科	〃	松本 倉五郎	〃
阿弥陀川	〃	倉谷 八太郎	〃
〃	〃	八戸 要助	〃
郷沢	〃	大宮 金助	〃
瀬辺地	〃	山口 与八	〃
瀬辺地		久慈 政吉	久慈 キサ
広瀬	学務委員	越田 長五郎	越田 豊治
長科	〃	藤本 石蔵	藤本 カン
高根	〃	稲葉 藤太郎	稲葉 孝太郎
阿弥陀川	〃	八戸 源助	八戸 一郎

部落別	職名	表彰者名	本人及び遺族名
中沢	村長	坂本 与作	坂本 大博
阿弥陀川	〃	八戸 弥太郎	八戸 信行
広瀬	〃	小畑 兵治	小畑 清実
中沢	〃	坂本 義徹	坂本 義雄
蓬田	〃	青木 三次郎	青木 三千郎
長科	〃	坂本 喜三郎	坂本 英雄
阿弥陀川	〃	森 藤八	森 光秀
中沢	〃	坂本 種一	坂本 大博
阿弥陀川	〃	八戸 専九郎	八戸 信行
広瀬	〃	田中 吉松	田中 一雄
蓬田	〃	武井 巳之吉	本人

部落名	職名	表彰者名	本人及び遺族名
中 沢	村議会議員 その他	坂 本 卯之助	坂 本 亀 雄
〃	〃	坂 本 隆 綱	本 人
〃	〃	坂 本 貞 教	〃
長 科	〃	張 間 周太郎	〃
〃	〃	坂 本 一 郎	坂 本 祐 一
〃	〃	坂 本 孫九郎	本 人
広 瀬	〃	天 内 岩次郎	〃
〃	〃	田 中 吉兵衛	〃
〃	〃	田 中 吉太郎	田 中 吉右エ門
高 根	〃	久 慈 仁三郎	久 慈 寛 一
〃	〃	林 崎 仁 助	八 幡 邦 雄
〃	〃	小野寺 孫 作	本 人
瀬 辺 地	行政連絡員	北 川 健 三	本 人
	功勞表彰	張 間 謙 吉	
広 瀬		田 中 吉兵衛	(巳之松改名) 田 中 吉兵衛
阿弥陀川		佐 藤 琢 法	佐 藤 奥 嶺
		八 戸 有一郎	八 戸 清 一
		相 坂 国 松	
		鈴 木 繁太郎	
		工 藤 文 吾	
		青森土木事務所長	
		青森保健区長	
		青森電話局長	
		青森海岸事務所長	
		青森出張所長	
		青森県土地改良会	
		青森県土地改良会	

部落名	職名	表彰者名	本人及び遺族名
広 瀬	学校長	高 松 勇 藏	高 松 みのる
阿弥陀川	〃	森 光 秀	本 人
蓬 田	〃	田 中 薫	〃
中 沢	〃	坂 本 勝太郎	坂 本 基
村 外	〃	沢 谷 三 郎	本 人
〃	〃	溝 江 紀 一	〃
〃	〃	八 田 勝 郎	〃
〃	分校主任	佐 藤 庄 一	佐 藤 そ め
瀬 辺 地	区 長	久 慈 寅五郎	久 慈 キ サ
中 沢	〃	吉 田 勘太郎	吉 田 繁 雄
広 瀬	〃	越 田 申 松	越 田 兼太郎
郷 沢	方面委員 民生委員	高 田 平之助	高 田 隆 広
阿弥陀川	〃	八 戸 三 郎	本 人
蓬 田	消防組頭	中 村 賢太郎	中 村 賢 逸
瀬 辺 地	〃	越 田 源 治	本 人
長 科	消防団長	坂 本 茂 雄	本 人
瀬 辺 地	〃	越 田 由太郎	越 田 由 一
瀬 辺 地	村議会議員 その他	飯 田 元 吉	飯 田 伊 一
郷 沢	〃	福 井 宇 吉	福 井 一 衛
〃	〃	福 井 音次郎	福 井 亀 太郎
蓬 田	〃	武 井 永 藏	武 井 巳之吉
〃	〃	田 中 福 藏	田 中 薫
郷 沢	〃	高 田 長次郎	本 人

子ども会育成連絡協議会結成さる

十一月二十五日子ども会育成連絡協議会結成準備委員会を開催満場一致で結成すべしと決定十二月四日結成総会を開催し蓬田子ども会育成連絡協議会が発足することになり

十一月二十五日小ども会育成連絡協議会結成準備委員会を
会長 小 狼 粕 雄
副会長 坂 本 登
監事 武 井 キノ
〃 坂 本 増 吉
〃 八 幡 邦 雄

子ども会世話人研修会開催さる

十二月二日蓬田中学校にて第三回子ども会世話人研修会を開催、講師助言者として東青教育事務所佐藤芳男先生、県社教課上田治先生、県社教指導員野倉かめ先生を迎え、

「学校の校外班と子ども会との関係について」「育成会と世話人との関係及び役割について」「今後の子ども会の活動について」研究協議されました。

婦人学級開設さる

十二月一日蓬田中学校にて婦人学級開講式開催、学級生三十五名にて今後の学習課題、日程等を協議決定し、同時にフィルムフォーラムを行った。

第二回の学習は同じく、蓬田中学校にて学校給食センター森栄養士を講師としてお正月料理(酢豚など)の学習を行いました。

NHK聴視者懇談会開催さる

十一月二十五日役場においてNHK聴視者各階層代表者十数名と青森放送局長、営業部

長、ほか局関係職員出席のもとに種々有意義な懇談が行なわれしました。

一月分キャンベイン

○にせ税理士に注意

税理士は、一定の資格をもつた職務に関する民間の専門家です。そして納税者の依頼によつて、税務書類の作成や相談などを行ないます。しかし上同には資格をもたないで税上の仕事をしている、いわゆる「にせ税理士」が見受けられます。

ゆる「にせ税理士」が見受けられます。税金に関する、大切な仕事を他人に依頼するときは、資格のない「にせ税理士」に頼んで損害や迷惑を受けることのないよう、注意が必要です。

(二ページより)

住む蓬田村がどのようになるかを示し、すすんでよりよい村づくりに協力するよう呼びかけております。

(2)、この憲章は、平易でしかも簡潔な表現をして、だれでも理解されるようにして、さらに一層深い意味を読みとれるように用語を吟味しました。

(3)、この憲章は、各項ごとに品詞の配列等文章の形式を一定して、全体的な調和を考えました。

(4)、この憲章は、一……二……三……の順子によらず一……一……一……と並列し、各項目の間に軽重はありません。

豊水放談 22

「百姓でも」

▲三十八年十月初日新聞経済展望経済成長の波に乗って電機製品はぐんぐん伸びている。

「農村でも」近頃電気器具がどんな家庭に入るようになった。

テレビ、洗濯機、冷蔵庫、掃除機テレビなどはない家庭が珍らしいおまけに農閑期になると慰安旅行に出るそのシーズンになると貸切りバスが十日も前から予約しないときまに合わぬこともある。

▲農村を問わずこの家庭にも

村憲章起草委員名(順不同)

- 坂本大博、田中一雄、八戸倉次郎
- 高田兼三郎、森初男、山館誠弘、坂本孫九郎、越田長太郎、佐井幸四郎、森光秀、久慈寛一、千葉琢男、類地徳勇、楼田正三郎、鎌田和夫、八戸喜代四、真土唯一、坂本毅、蝦名敬、島中徳幸、坂本清江、坂本とこ、武井きの、小野しさ、坂本増吉、松本倉五郎、張間勇、森孫太郎、津島源之助、加藤喜代作、飯田岩吉、天内岩五郎、八幡邦雄、高坂常雄、清水專造、藤田尚政、松本順一、古川あさ子、藤田修一、武井健一、山館建、武井三三郎、坂本裕一、川崎善一、

- 高田利四郎、坂田伝次郎、芳賀長七、山口与八、坂本登、八戸良子、佐藤良子、佐井かつ子、坂本豊道

村憲章起草実行委員名

- 委員長 坂本豊道
- 委員 坂本大博、田中一雄、森光秀、千葉琢男、類地徳勇、楼田正三郎、鎌田和夫、八戸喜代四、真土唯一、藤田尚政、坂本清江

よいのかと云いたい。豊水がへソ曲りだからと云われると一言もないのかしら。

▲国語に弱いと云われても国民の殆どが外国語よりは絶対強いことには間違いない。

「でも」「議員でも」「村長でも」「学校の先生でも」「公民館長でも」「彼でも」「あの人もなア」その「でも」のもつ意味は常識を逸した意外な出来ごとを表す発言内容だと思われるし、観念的用語であらう。

「でも」なる用語は身分不相応な言葉や行動を表現するものだと解釈される。そうなるへとソ曲りかどうか判断がつくと思われる。

▲東京では乞食の家庭の子供が云うことをきかないと、「お前がそんなに云うことをきかないと百姓にやるぞ!!」と云うそうだ。

又、運転手が車をモタ／＼させておると、「この野郎、どこの百姓

だ!! となられるそうだ。過去の戸丸は如何に卑しめされ、みじめであつたかは理解するにむづかしくない。

▲生産技術と米価にささえられて、テレビをみる時間、婦人の労力を省く洗濯機、食生活の衛生を守る冷蔵庫も入り喜こばしいことだ。だがあんのんとしてはおれない、それを破壊しようとする大きな浪が押し寄せて来ている。政府は「米が余つた」「買わない」「とるな」「価を下げる」と云つ

ておる。黙つておると乞食が云つたように云うことをきかない子が百姓にされかねないかも知れない。今や農村の老人も青年も心を合せ力を結集して対処すべきである。自らの生活を守るには自らが立ち上る外途はあるまい。これをつき抜けることを安定したやかが築かれるであろう。押しよせてきている大波がどんなかたちで進んでおるか大きな目をあいてながめながら……。(一九六八、一一、六)

昭和四十三年度 女子青年建設班 開講式開く

蓬田村女子青年建設班第八回目の開講式がこのほど旧蓬田小学校講堂で、坂本村長ほか多数が出席して行われた。

和洋装編物講師は、和裁、鈴木貞子、東郡蟹田町、洋裁、野藤絹江、東郡蟹田町、編物、佐藤津津子、青森市、がそれぞれ四十四年三月末まで委嘱されている。

女子青年建設班合宿研修は四十四年二月に行う予定としており、具体的研修日程は後日決定する。

【写真……開講された女子青年建設班】



